

アドバンス・ケア・プランニング 講演会

| | |
|------|---|
| 日時： | 平成29年5月26日(金) 18:00～19:45 |
| テーマ： | アドバンス・ケア・プランニング ～縁起でもない話の先にあるもの～ |
| 講師： | 一般社団法人iACP共同代表 医療法人鉄蕉会亀田総合病院 在宅医療部 医長 原澤 慶太郎 先生 |
| 会場： | 白河厚生総合病院 大会議室 |
| 参加者： | 参加者135名 医療・介護従事者、行政職員 |



内容：

急速に高齢化が進んでいる我が国において、終末期医療を必要とする高齢者が今以上に増えていくことは確実です。その一人ひとりの意思を最期まで尊重するためには、まず個人の意思を明らかにすること、併せて、代理人となりうる人に意思を伝える場、互いの意思や価値感を理解するための話し合いの場を持つことがたいへん重要となります。そして、この話し合いは一度だけでなく、継続して行なっていく必要があります。それは、私たちの意思や価値感はいつでも変わる可能性があるためです。終末期医療や延命医療を考えたり、どのような最期を迎えたいか、できないのは、「縁起でもない話」であるから、という理由の一つかもしれませんが、なかなか話し合いが講師である原澤先生は『医療・介護従事者としての自分の役割は何か？まず、支援者が自身の死生観、価値感などを理解することが前提条件となり、そこから「相手を思いやること」、「どう生きるか」を考え、話し合うきっかけを作っていく必要があります。しかし、この話し合いも無理強いや侵襲を与えてしまうこと、最期の時期が近づくほど難しくなることから、「健康状態が安定している時に落ち着いて行なうことが好ましい」、人それぞれの価値感の多様性を理解し分かり合えないことについても、それを分かり合うというバランスの取れた意思決定支援が望ましい』とお話しされました。